

令和7年度第1回 総合教育会議 資料

教育DXについて

企画部企画課 未来共創政策推進室

入間市教育大綱策定の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年度				第1回					第2回 概要説明			第3回 トピック①
令和7年度				第1回 トピック②					第2回 トピック③			第3回 教育大綱 案
令和8年度				第1回					第2回 教育大綱 説明			第3回

今回の会議では、教育大綱策定に向けたトピックとして、「**教育DX**」について取り上げることとし、**先進事例の紹介**と入間市の**現在の取組**を説明させていただきます。

事例紹介① ～大阪府 大阪市～

個性を認め合う学び合い学習の充実

取組の内容

- 実験結果や単元の振り返りを1人1台端末を用いて行い、それを**クラス全員で即時に共有**。
- そこで気づいたこと等をグループで話し合う時間を設けた。



効果

- 振り返り等の即時共有が可能
- 多様な考え方への気づきの機会が多くなった。
- 同じ考え方の人がいることを認識しやすくなり、自分に自信を持つことや自己肯定感を得る機会が増えた。
- 授業の効率化
- 話し合いや意見交換の時間が増えることにより、学び合い学習の充実につながった。
- 子どもたちの疑問点を網羅的に把握できるようになり、その解消に向けたカリキュラムや授業の工夫などへ時間をより充てることができるようになった。

事例紹介② ～茨城県 水戸市～

教育データの利活用によるきめ細やかな指導や支援

取組の内容

- 「学力向上」と「不登校・いじめ対策」を主眼とした教育データの集約化・可視化するシステム(教育ダッシュボード)の実証実験を令和5年度に小学校・中学校各1校で行った。
- 教育ダッシュボードは「課題や振り返り等で得られるデータ」と「学校生活等で得られるデータ」から構成され、教職員がそれらのデータを活用して、実態に応じた指導や支援につなげた。



効果

- 集約化されたデータを活用して、個別最適な指導やアプローチが可能
- 「課題や振り返り等で得られるデータ」では、**クラス全体の授業の理解度が把握しやすくなり**、補充指導や支援を行うことが容易になった。また、児童生徒の得意・不得意の傾向も分析しやすくなり、**個々に応じた個別最適な指導・支援がよりしやすくなった**。
- 「学校生活等で得られるデータ」では、その日の気持ち等の児童生徒の生活面の状況把握に活用でき、教職員の**経験値に加え、データに基づいた児童生徒への関わりにつなげることができた**。

事例紹介③ ～埼玉県 鴻巣市～

ICTを活用した主体的な学びの醸成

取組の内容

- 使用されなくなったPC室を、官民連携により大型スクリーンや高性能PCといっや最先端のICT機器を備え、PBL(課題解決型学習)やSTEAM教育(※)の展開に対応できるなど、協働の学習が実践しやすい学習空間へ改装した。
※理数教育に創造性教育を加えた学習で、課題解決力や創造力を養うことができる。
- 活動事例…社会科の授業「投票率低下の原因を探る」:アンケート、啓発ポスターの作成



効果

- 自ら課題を発見し、他者と解決を図るための学習の実現
- 可動性のある机や椅子の整備により、グループワークやプレゼンなど、教育場面に応じた即興的なレイアウトがたやすくできる。
- 大型スクリーンにより遠隔地と等身大サイズでダイナミックな授業ができるようになった。
- 主体的な学びの促進により、**各教科における学力向上にも寄与**している。

事例に共通する視点

視点① リアルタイムでの情報共有

多様な考え方や気づきにつながる機会を増やしている。
また、効率化による余剰時間を、対話やグループ学習といった学び合いの時間につなげている。

視点② 個別最適な指導・支援の一助

これまでの経験則に加えて、ICTの活用により蓄積された様々なデータをエビデンスとして活用し、個別最適な指導・支援を行えるようにしている。

視点③ 新たな学びへの取組

ICT機器の充実により、グループワークと発表を主にした学習が容易になり、自ら課題を見つけて話し合いにより解決する、主体的な学習を促進している。

今後求められる視点 ～AIの活用～

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



1. 生成AIについて

生成AIの概要



- 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

2. 基本的な考え方

人間中心の利活用



- 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

情報活用能力の育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教職員が校務で利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

児童生徒が学習活動で利活用する場面



- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会等が押さえておくべきポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じる必要があるため、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

共通して押さえておくべきポイント



- 安全性を考慮した適正利用
- 公平性の確保
- 情報セキュリティの確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任
- 個人情報・プライバシー著作権の保護

今後求められる視点 ～AIの活用～

- 文科省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)」
⇒ **基本的な考え方** 「人間中心の利活用」「情報活用能力の育成強化」

学校現場においては・・・

- リスクや懸念を考慮 ⇒ 例えば「夏休みの宿題での生成AI利用禁止」となってしまうがち

ガイドラインの基本的な考え方に沿うならば・・・

利用禁止が前提ではなく、人間の判断により生成AIを一つの参考として活用できる。

⇒ 言い換えると・・・

「学びを支える」ツールとして、児童生徒が正しく使いこなせるように促していくことが重要

※ **生成AIの活用**は利用者が問いを考え、その問いに対する生成AIの回答を検証し、利用者の答えをまとめていくという**主体的な学びそのもの**。

近い将来、社会に出て生成AIといった最先端技術を**使いこなせる子どもを育成するためには、AIを前向きに捉える**必要があり、教育DXに求められる重要な視点の一つと考える。

視点① リアルタイムでの情報共有

多様な考え方や気づきにつながる機会を増やしている。
また、効率化による余剰時間を、対話やグループ学習といった学び合いの時間につなげている。

視点② 個別最適な指導・支援の一助

これまでの経験則に加えて、ICTの活用により蓄積された様々なデータをエビデンスとして活用し、個別最適な指導・支援を行えるようにしている。

視点③ 新たな学びへの取組

ICT機器の充実により、グループワークと発表を主にした学習が容易になり、自ら課題を見つけて話し合いにより解決する、主体的な学習を促進している。

視点④ 教育的観念を持ちつつ、最先端技術を使いこなす

生成AI等の最先端技術を教職員と生徒がともに学び合い、使いこなすことで、子どもたちが未来を切り拓く力を育む。

教育DX



- ◆ 主体的な学びや学び合いの増進
- ◆ 個別最適な学習の推進

入間市の教育DX

～GIGAスクール～



GIGAスクール構想とは

全国の小中学校、高等学校などの児童生徒1人1台の学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを整備し、個別最適化された教育を実現するための文部科学省が推進する構想。2019年に発表され、2020年から本格的に導入が進められています。

具体的には、以下の2つの柱で構成されています。

1. 1人1台端末の整備:児童生徒1人1台のパソコンやタブレット端末を整備し、学習活動で活用できるようにします。
2. 高速大容量の通信ネットワークの整備:学校に高速で安定したインターネット環境を整備し、端末を快適に利用できるようにします。

この構想の目的は、児童生徒の学習意欲を高め、個別最適化された学習を可能にすることで、学力向上や創造性育成を目指すことです。

【入間市】

導入時期（令和2年度）

令和2年1	1月	約4,000台
令和3年	2月	約7,500台

導入キャリア

NTTドコモ

1人3GBシェアプラン/月

導入端末

iPad第7世代（cellularモデル）

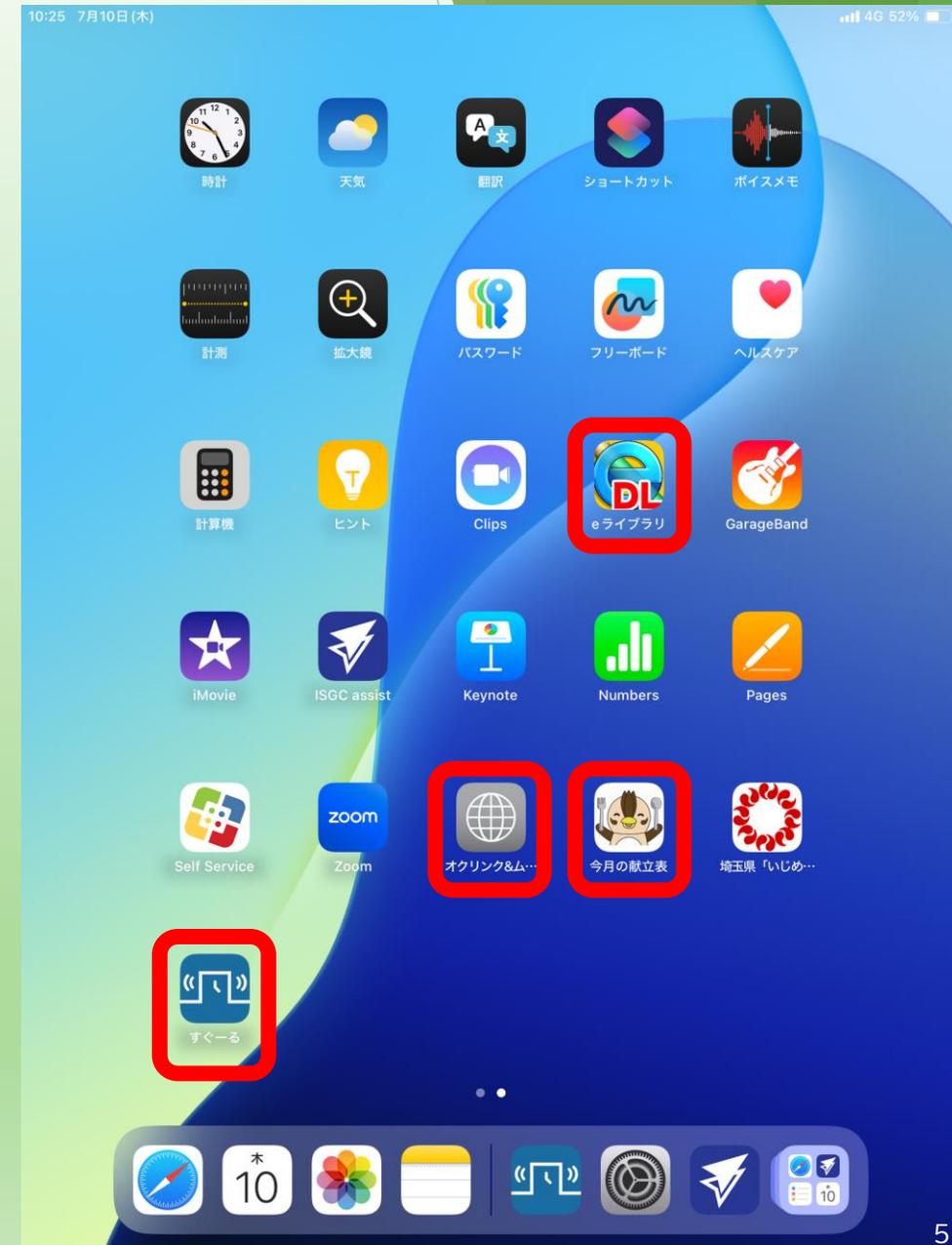
- LTE対応のためどこでも使用可能
- 管理ソフト導入により一括管理
- 10.2インチの大画面
- 前面・背面にHDカメラ搭載
- バッテリー最大10時間



主な利活用

- 授業支援ソフトによる協働的な学び
- ドリルソフトによる個別最適な学び
- 学校・家庭・地域をつなぐ連絡システム「すぐーる」による情報発信
- 給食の献立表の配信

・タブレットホーム画面



活用の様子



入間市の教育DX

校務支援システム及び教育ネットワーク



校務支援システムとは

学校の管理業務を効率化するためのソフトウェアやプラットフォームのことを指します。授業の時間割編成、生徒の出欠管理、成績管理、教職員の勤務管理、保護者との連絡など、学校運営に関わる様々な業務をサポートします。これにより、教職員は業務の効率を上げ、教育活動により多くの時間を割くことができます。

変更点①

校務支援システムの変更

Winbird → C4th

保護者連絡システム導入

学校徴収金システム導入

C4thの主な機能

機能の幅広さは業界随一、先生方の業務を支える機能がワンパッケージになっております。

最も多くの先生方に活用されている統合型校務支援システム

EDUCOM
エデュコム

EDUCOM マネージャー



学籍・成績管理

- 児童生徒名簿
- 転出入・進学処理
- 出席簿
- 日常所見 v4
- 成績処理 v4
- 通知表 v4
- 指導要録 v4
- 調査書 v4
- 公簿電子保管
- 個別指導の記録 v4
- **ダッシュボード v4**

保健

- 健康診断 v4
- 保健室来室記録
- 保健日誌
- 結果帳票作成
- 統計作成
- 成長曲線

グループウェア・校務管理

- 連絡・共有 v4
- 文書連絡（公文書回覧）
- 文書受理発送簿
- 予定表
- 学校日誌
- 施設・備品予約 v4
- 授業の記録（週案）
- 出張
- 出勤簿・サービス管理
- 保管文書（電子保管）



「V4」とは、新デザインに対応した機能になります。

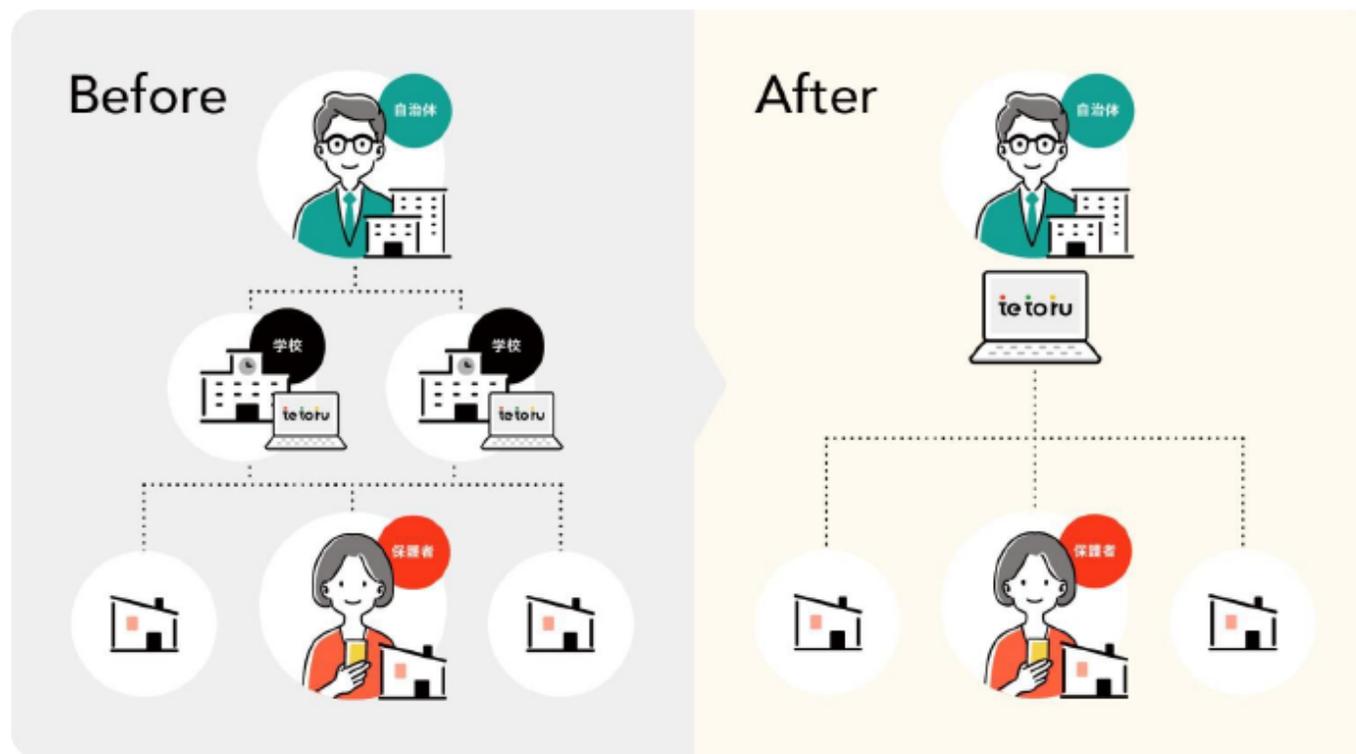
順次、学校現場からの改善や追加要望をもとに機能をバージョンアップしております。

TeToru (保護者連絡システム) の主な機能

自治体から保護者への連絡機能



これまで学校経由だった連絡が、保護者に直接送れます。先生の負担を減らし、タイムラグをなくせます。



「毎月集金サービス」が解決する課題



教職員の課題

- 集金に関する業務の課題
 - 名簿の作成・都度最新化に時間がかかる
 - 未納が多く¹⁾、対応するのに手間と精神的な負担がかかる
 - 口座振替用紙の記入、内容の不備チェック、回収後に口座番号を学校でパンチ入力するなどが手間
 - 金融機関とのデータのやり取りが手間
(紙・DVDなどを持参することも)
- 現金集金の課題
 - 金額の確認・保管・紛失・盗難ケアなどの負担がかかる



保護者の課題

- 学校指定口座での引き落としによる課題
 - 口座開設が面倒
 - 金額不足が発生しやすい
(生活口座ではないため、残高を最小限にしたい)
 - 入金面倒(送金の場合、手数料負担も発生)
- 現金集金の課題
 - 現金の準備が手間
 - 子供に現金を持たせることが不安

変更点②

ロケーションフリー環境の整備 校務用PCのLTE化

どこでも気軽に使える

eSIM対応モデル



変更点③

ネットワーク・セキュリティの変更

オンプレミス → クラウド

二層分離 → ゼロトラスト

入間市で導入している教育支援ソフト

(授業支援ソフト)
オクリンクプラス



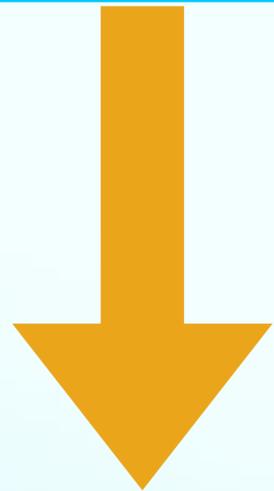
協働的な学び

(ドリルソフト)
eライブラリ
ドリルパーク



個別最適な学び

(授業支援ソフト) オクリンクプラス

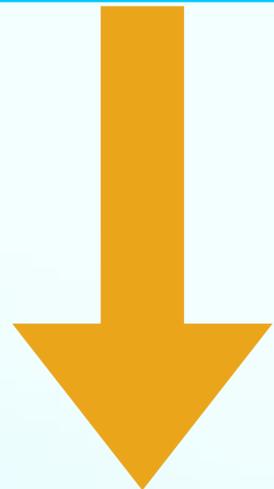


協働的な学び

① 集計機能

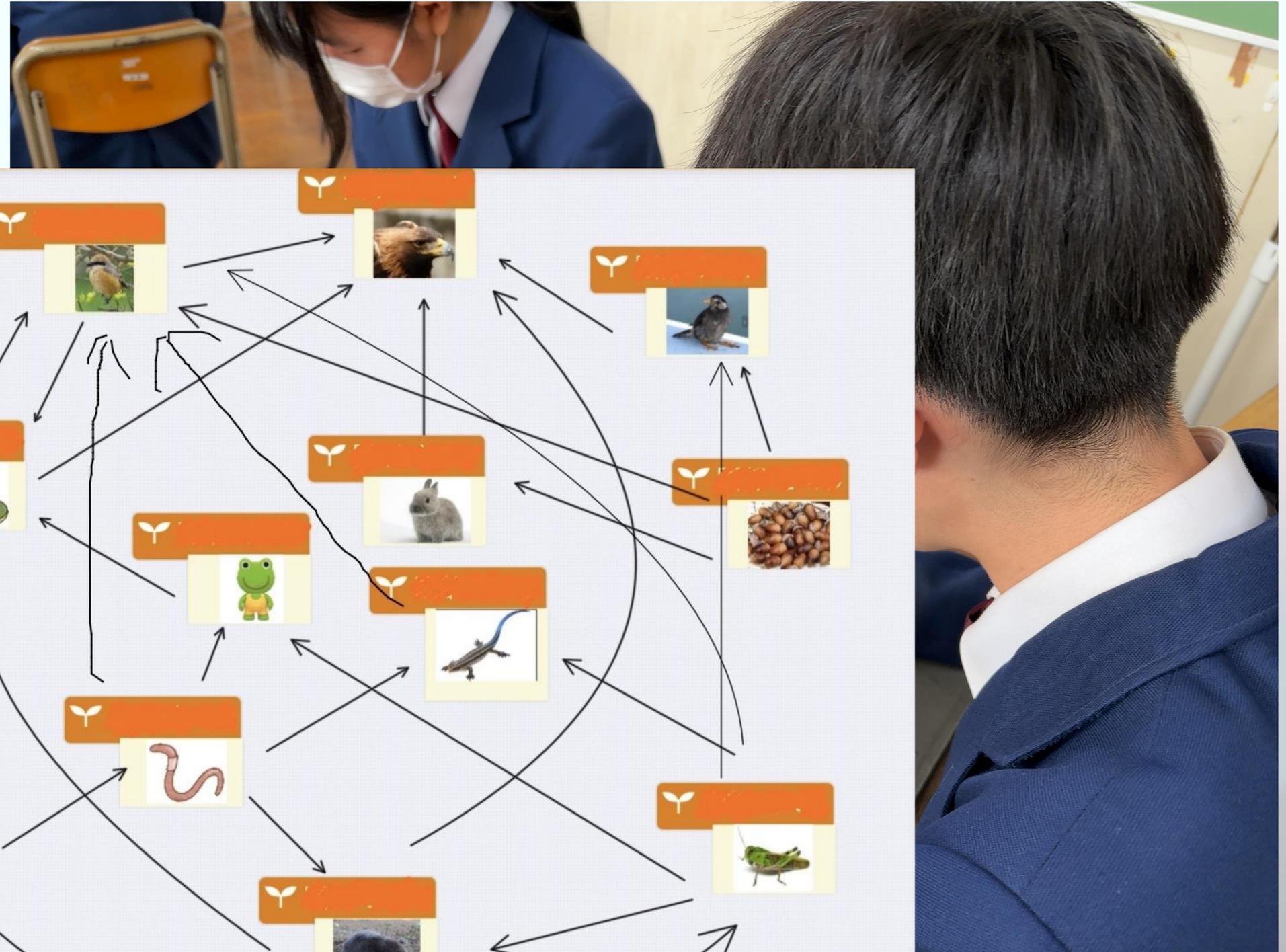


(授業支援ソフト)
オクリンクプラス

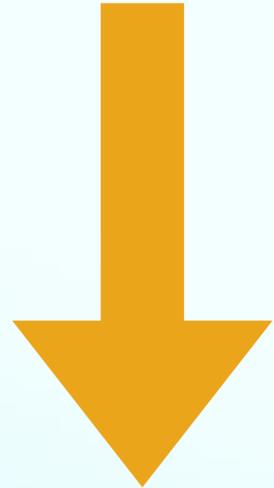


協働的な学び

② 共同編集



(授業支援ソフト) オクリンクプラス



協働的な学び

③ 評価の充実

① アイデアスケッチ

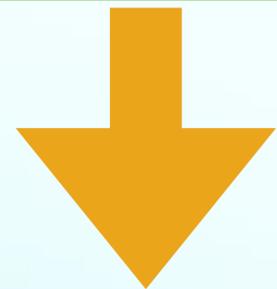
部屋を3つに分け、その中で作業できるように作りました。

今日は、クラリネットづくりを重点的にやりました。細かいキーの再現が難しかったです。フェルトで作ったことで、背景とは違った優しい雰囲気になりました。



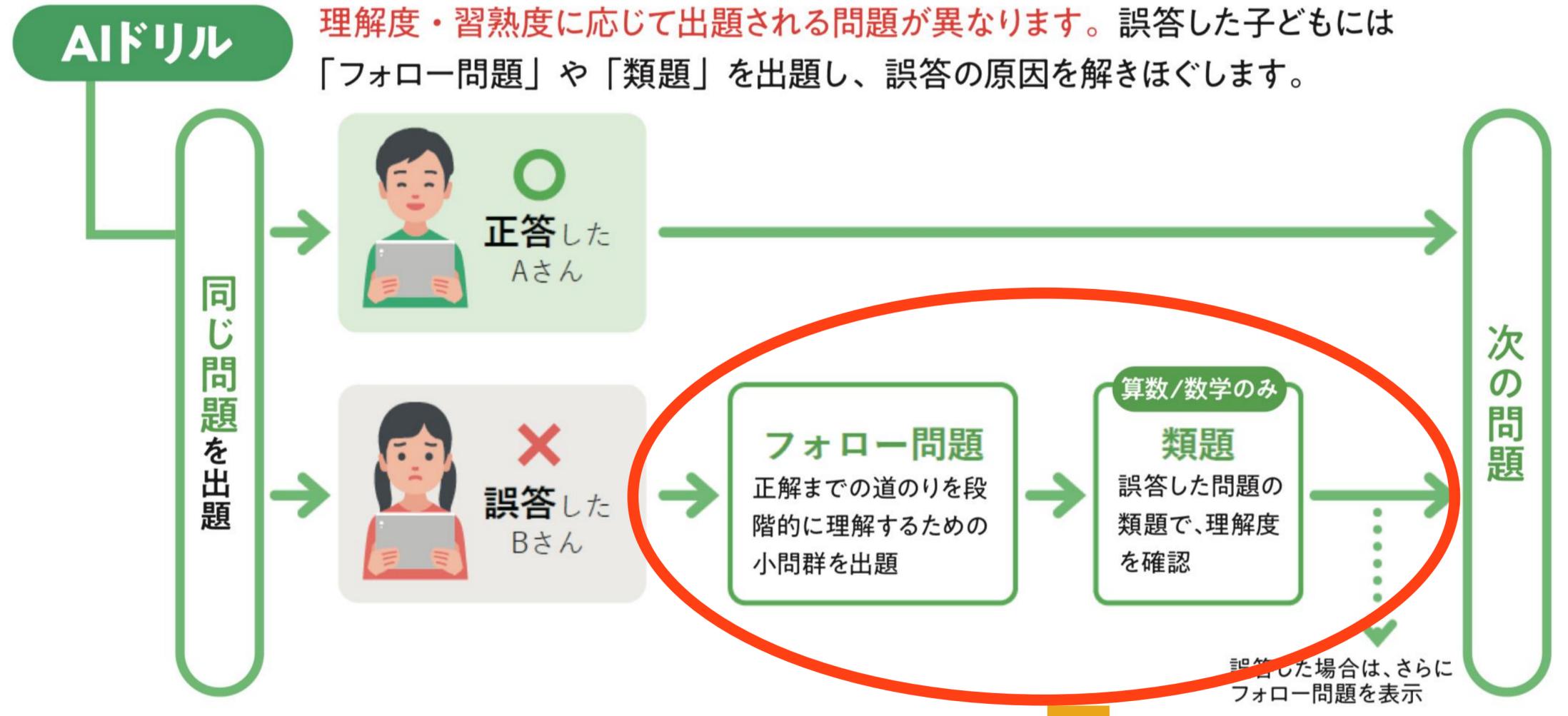
スタンプ

(ドリルソフト) eライブラリ ドリルパーク



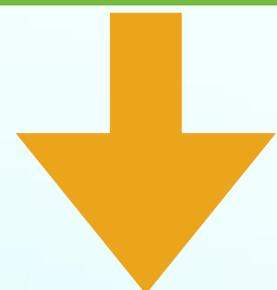
個別最適な学び

① AI活用による個に応じた問題



従来のワーク学習に代わり 家庭学習のさらなる充実へ

(ドリルソフト)
eライブラリ
ドリルパーク



個別最適な学び

② 達成度の確認



令和7年度第1回 総合教育会議 資料

未来共創の取組について

企画部企画課 未来共創政策推進室

令和7年7月24日(木)

未来共創の取組について

- 未来共創に向けた官民共創については、地域の様々な主体が交わり、持続可能なかたちでの地域活性化事業として生まれ変わった「入間市駅前にぎわい創出事業」や地域資源である狭山茶を体験や観光という視点で捉えた茶畑テラス「茶の輪」等、様々な事業を展開しています。
- 未来共創政策推進室では、地域課題解決に向けた民間からの提案や未来志向の提案について一元管理する「**いるま未来共創ラボ**」を設けています。
- 今回は同ラボに提案があり実現した、子どもたちを主体とした取組事例として、防災教育キット「**はるるーと**」を使用した取組について報告させていただきます。

1-1. 「はるるーと 防災教育キット」とは

避難ルートサイン「はるるーと 防災教育キット」



- 「はるるーと」は、テープを貼る体験を通じて子どもたちの日常的な防災意識を醸成する、新しい避難ルートサイン。
- 「デザインの手で何か社会貢献をしたい。」というI&CO（アイアンドコー）合同会社の社員のアイデアから誕生し、防災用語「おかしもち」および避難経路を示す矢印がデザインされている。
- より効果的な活用に向けて、「はるるーと」と防災教育用教材を組み合わせた「はるるーと 防災教育キット」を制作。

入間市にて実証実験を実施

1-2. 「はるるーと 防災教育キット」とは

I&CO合同会社 「はるるーと」実証実験

避難誘導テープ



はるるーと 防災教育キット



フェーズ1 (テープデザイン・強度)

令和6年4月、静岡県三島市立東小学校での避難訓練において「はるるーと」を使用し、その効果を検証。

→テープの素材等を改良

フェーズ2 (効果的な活用)

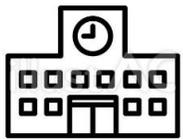
「はるるーと 防災教育キット」の効果検証のため、**令和6年8月「いるま未来共創ラボ」へ提案。**

9月に入間市と協力協定を締結し、10月に藤沢東小学校で実証実験を実施。

2. 取組意義

- 「はるるーと 防災教育キット」を活用した防災教育の取組は、**こどもまんなかの学校運営、防災訓練との親和性、パーパス実現の観点から、市として意義のある取組**といえる。
- 令和6年10月に実施した藤沢東小での実証実験では、学校やメディアから好意的な反応が寄せられ、**一定の成果が得られた一方で、運営面における課題も明らかとなった。**
- こうした背景をうけ、**今年度は藤沢東小学校にて改善点を反映した内容で2回目の実証実験を行い、他校でも再現可能な「藤沢東小モデル」として整備することを目指す。**そのうえで、**来年度は「総合的な学習の時間」の1つの選択肢として、希望校へ展開する。**

市の取組意義



こどもまんなかの学校運営

避難ルートサインを自らの手で、グループで協働して貼ることによる「学校づくりの経験」と「学び合い学習の実践」。



防災訓練との親和性

実際の災害時に役立つ実践的な取組。子どもたちが日頃から防災について考え、行動する力を育む。



パーパスの実現

パーパス実現のためのアクション事例としてPRし、共感者を増やす。
(ウェルビーイング、オープンアクション)

3-1. 昨年度の実施概要と振り返り

実証実験 概要

- 日時 令和6年10月23日（水） 13:30～15:10
- 場所 入間市立藤沢東小学校（入間市東藤沢7-9-1）
- 対象 小学4年の児童 3クラス
- 単元 総合的な学習の時間（45分2コマ）
[単元名] 10歳の誓い ～入間市まちづくりプロジェクト～ 「福祉」×「防災」
- 内容 「はるるーと」の貼付体験と、防災教育キットを使用した防災授業

（事前MTG）

議題	出席者	会議形式
初期計画の設計	未来・I&CO	オンライン
計画概要の学校への共有	学校・未来・I&CO	オンライン
現場確認、授業詳細の打合せ （進行段取り、授業アレンジ、テープを貼る体制や班分け等）	学校・未来・I&CO	対面（藤沢東小）

3-2. 昨年度の実施概要と振り返り

(当日の授業進行)

前半45分：①防災または、避難経路の基礎知識を学ぶ授業

後半45分：②テープを貼る体験（テープ設置）

授業45分枠	時間（分）	内容	教員のやること	生徒のやること	
前半	10分	防災に関する考え方	・ アイスブレイク的に「防災ってなんだっけ？」を生徒から意見をもらうことで、意見の違いなどを認識してもらう	・ 生徒への投げかけ、意見を引き出す	・ 挙手してもらい、自身の意見を発表
	35分	防災知識の学習	・ 防災の基礎知識の学習 ・ 避難経路に関する基礎知識の学習	・ 授業スライドで説明	・ 挙手してもらい、自身の意見を発表
休憩					
後半	※必要に応じて	掃除	※テープを貼るので、廊下をきれいにしておく		
	10分	避難設備と避難ルートの確認	・ 前半で学んだ避難経路について、自分の学校のどこにあるかを確認する	・ 生徒と廊下に出て確認する	・ 廊下に出て避難誘導等の確認をする
	25分	テープを貼る体験学習	・ 2人1組で貼っていく。生徒みんなが体験できるよう班をつくる ・ ハサミの使用は先生が担う ※テープは「お・か・し・も」にて実施 ※空き時間を利用して、「えらぶっく」や「振り返りシート」を実施	・ 生徒の作業の指示や監督	・ ペアやグループを作り、テープを貼る
	10分	おさらい	・ 教室に戻り、前後半含めたおさらいを行う	・ 授業スライドで説明	・ 自席に戻り、授業を受ける

3-3. 昨年度の実施概要と振り返り

○ 成果

(学校の反応)

- **特段問題なくスムーズ**に授業が進行できた。
- 子ども自身が貼ることに意義がある取組。大人が一方向的に指導するよりも**防災意識は高まった**と感じる。
- テープが貼ってあることで、**日常的な意識付けにも効果がある**と感じる。
- **いざという時の手助け**になる。また、**生徒・先生の不安解消**にも繋がる。

(他校からの反応)

- 藤沢東小の実証実験に関して、**宮寺小などが関心を示した**。

(メディアの反応)

- **東京新聞、読売新聞、FMチャッピー**で取り上げられた。

△ 課題

- テープが「おかしもち」だが、東小では「おかしもは」で教えている。**普段の指導と齟齬が生じないよう「ち」の部分だけテープを切る必要があり大変**だった。大人の人手が増えるとありがたい。
- グループに分かれて行い、端から順番に貼っていく手法で行ったため、**貼っていないグループ（20名以上）は教室で待機**することになってしまった。**約40分間の待ち時間を有効活用できる素材があるとよい**。

課題への対応

- **待ち時間が発生しない手法の検討**
※解決困難な場合は関係課を絡め、解消する

- テープ一部剥がれてきている箇所がある。

課題への対応

- **I&COへ情報提供**

- ガイドがないとまっすぐ貼れない。

課題への対応

- **学校にある備品等で解消できないか、個別相談**

4. 今年度以降の取組（予定）

R7.9月

藤沢東小での実証実験

課題への対応を反映した内容で、藤沢東小にて2回目の実証実験を行う。

R7.10月頃

藤沢東小モデルの確立

藤沢東小での実施を通して、他校でも再現可能な形に落とし込む。

R7.11月頃

希望校展開トライアル

1校（宮寺小学校）にて、藤沢東小モデルを実施し、再現可否を検証。

R8.2～4月頭頃

希望校展開

「総合的な学習の時間」の1つの選択肢として、校長会にて展開する。

ポイント

待ち時間対策

- ・ 待ち時間なくテープを貼る手法検討
- ・ 防災ビデオ等、素材の提供

関係課との連携

- ・ 危機管理課にも学校現場における防災教育を見てもらう

他校からの見学

- ・ 今後の参考に、他校の見学も可能にする。（校長会で周知、出張依頼文の作成）

⇒ 他校でも再現可能な形に落とし込む

ポイント

展開資料の作成

- ・ タイムスケジュールや写真等の当日の授業の流れがわかる資料や取組効果を盛り込む。

展開方法

- ・ 校長会で展開し、興味のある学校に手を挙げてもらう

⇒ トライアルで課題抽出・改善のうえ、希望校へ展開する